

講義名	研究演習		
講義コード	55011	授業形態	
担当教員	秦 洋二		
開講期・曜日・時限	通年 金曜日 5時限		
備考			

ゼミ
全学ゼミ
学部
全学部
学科
全学科
演習名
秦 洋二ゼミナール（流通・マーケティング論）

概要説明

みなさんは普段色々なお店で買い物をしています。スーツやジャケットを買う時は、デパートで買おうでしょうし、食品や生活雑貨はスーパーで買おうかもしれません。ジュースやお弁当などは近くのコンビニで買うことが多いでしょう。本ゼミでは商業・流通の活動が行われている現場に注目し、流通やマーケティングの理論が現実社会においてどのように適用できるのか、また現実社会で起きている現象から、どのような理論が導き出せるのかを考えていきます。そのためには自分自身の足で、実際に地域を歩いてみる必要があります。本ゼミでは全員必ずフィールドワーク（現地観察）を体験します。どこに行つて、何を観察するかはゼミ生自身で決めてもらいます。

3年次以降は社会連携企画、アクティブラーニングにも積極的に参加します。ゼミの時間以外でも作業が必要なことが増えますが、その分やり甲斐も大きくなります。卒業研究では、自分自身で自由にテーマを決めて卒業論文の作成に取り組みます。

教室ですら勉強だけでは満足できない人、積極的に外に出てみたい人、そして頑張るときは頑張る、遊ぶときは遊ぶ、メリハリの効いた学生生活を送りたい人は、是非ガイダンスを聞きに来てください。

学位
博士（文学）

教員よりの要望

知り合いに会ったら挨拶をする、遅刻や欠席をしないといった常識的な行動が出来る人、何事にも積極的に取り組む意欲ある人の参加を期待します。

教員英字氏名
YOJI HATA
研究室
313研究室
最終学歴
九州大学大学院人文科学府歴中空間論専攻修士課程修了
主な研究活動・社会活動・研究業績

【著書】
『日本の出版物流通システム - 取次と書店の関係から読み解く -』九州大学出版会、2015（単著）
『小商圏時代の流通システム』古今書院、2013（分担執筆）
【論文】
“Regeneration” of urban functions: a case study of Otsunaka Street, Kobe City 『The 11th Society of Asian Retailing and Distribution (SARD) Workshop proceeding』2013, pp.325-337
帳合書店の分布状況からみた取次会社間の競争 流通科学大学論集・流通・経営編・第25巻、2012, pp.87-104

主な卒業論文のタイトル

- ・バラエティ番組の現状と今後
- ・喫煙者と非喫煙者の共存社会
- ・大型スーパーの滲出と商店街の衰退
- ・パチスロの人気・不人気
- ・大学生の食生活について - 大学生活の実態 -
- ・サッカーハイク市場におけるライキのマーケティング戦略
- ・中古車市場の今後 - 中古車人気の推移 -
- ・富山の鉄道交通について
- ・宅急便の配送システムと効率化
- ・兵庫県酒蔵の立地分析
- ・若者の車離れ
- ・明石コミュニティバス「たこバス」の存続理由
- ・ヒップホップの始まりから現代への影響
- ・EC市場における消費者の関わり方
- ・非喫煙エリアでの若者の喫煙行動
- ・黒田官兵衛の歴史の真相についての研究

趣味・特技

買う物が無いのにお店を見に行ったりするのが好きです。特に電気屋さんが好きです。

所属

商学部マーケティング学科

所属学会

日本商業学会、日本地理学会、人文地理学会、経済地理学会、地理科学学会、地理空間学会、日本出版学会、サービス学会

専門分野

経済地理学、流通システム論、買い物弱者問題

選考方法

- ・ゼミの個別ガイダンスには必ず出席してください。ガイダンスに来なかった人の応募は原則認めません。
- ・応募者多数の場合は、自己紹介書類の内容、成績等から総合的に判断します。場合によって面接を実施します。
- ・本ゼミは出席重視です。毎回の出席を確約出来る人のみ合格とします。

担当科目

商業起業論、研究演習、研究演習、卒論演習、教養基礎・基礎知識（地理）、小売業の使命と魅力、海外流通リテール研修、流通科学入門、流通概論など

備考

このゼミでは2、3年では現地調査・フィールドワークを行います。行き先は皆で話し合って決めます。交通費等一部自己負担をお願いする場合があります。卒業論文のテーマは自分で考えて決めて頂きます。

評価方法

出席を重視します。それに加えて、演習への取り組みや態度、発表内容などを総合的に判断して評価します。
遅刻、無断欠席は厳禁です。
講義形式の変更があった場合でも評価方法は変更しません。

実務経験の有無及び活用